

2017年 教職大学院体験授業まとめ

開催概要

日時	10月18日(水) 13:30~16:30
場所	愛知教育大学 教育未来館2A講義室
対象	基礎領域〈学部直進・社会人〉
参加者	8名(学部生6名《うち学外者5名》, 社会人2名)
内容	13:40 - 教職大学院生による教職大学院紹介 14:00 - 体験授業 「考えてみましょう」を考えてみる 松井 孝彦(授業づくり履修モデル講師) 14:30 - 大学院説明 15:00 - 入試説明, 履修相談カウンセリング

<体験授業風景>



アンケート回答

◆ 体験した授業で印象に残ったことや学んだこと、感想などをご自由にお書き下さい。

- 「何を」教えるために行う授業なのか、学習のレディネスを把握していないとどうなるのか、ということを知りました。授業を体験したことで、自分で考え、人に説明したことはよく身についたという実感を得ることができました。
- 自分が教育実習をした時に足りなかったのはこの点だと思いました。発問の仕方でも考えるべきポイントが適確に分かりました。グループで意見を聞き、まだまだ自分は視点が狭いなど実感しました。
- 「考えてみましょう」という一言でここまで考えることがなかったので再度、自分が使っている言葉について注意しながら授業をしようと思います。
- 考えてみるは子どものまなびにとってもつながると思うが、なげかけ方、時期を見定めないとうまく作用しない。また、対象学年に合う言葉かけも重要であるなど思った。次に、教えることと考えさせることを区別が必要であるなど思った。私は専門教科が理科なので、結果から考察することが多いので、“考える”質を向上させることは大切だなど思った。
- 「考えてみましょう」という普段なにげなく使う発問に、子どもの持っている知識や何を教え、何を考えさせなければならないのかということまで考慮する必要があることを学べたことがとても新しい発見だった。教師は自分の言葉をしっかりと吟味し、よりわかりやすく伝える工夫をすることが大切だと感じた。
- 児童、生徒の立場に立って考えることの授業であったと感じ、考え方や必要な知識について、学部ではできないことが学べたと感じました。
- 教職大学院ということで、児童に合うかを中心に考えられていると感じた。現場を引っ張る教員の育成が目的かと思っていたが、教員としての資質の向上が目的だということがわかった。
- 大学の授業は“聞く”が中心で、自分の思っていること、感じていること以上は、なかなか学びにくかったです。周りの人、意欲的な人と意見交換できるのがとても楽しかったです。また、当たり前で発問してしまいそうな内容についてあらためて考えることで、児童・生徒の立場に立つことができたように感じました。とても魅力的でたのしかったです。

◆ 入試説明会の感想などをご自由にお書き下さい。

- 募集要項では分からない点、個人的な不安にもお答えいただき、大変心強く感じました。
- 入試にあたって不安に感じていたことがたくさんありましたが、志望したい気持ちが強くなりました。
- 対応してもらいありがとうございました。
- とても親切でいい説明でした。院は学校での実習が多く、現場に出てから役立つ力が育つなと思います。高校での実習の見込みがうすいのが少し残念です。
- 学校サポーターで実践したことと大学で学んだ理論をつなげて学ぶことができるところがとても興味深かった。教師になった後に応用できる工夫を多く覚え、力をつけたいと思った。
- 在学している学生さんの話を聞くことができたり、実際に授業を体験することができてよかったです。
- 入学してからの課程の説明を聞いて、将来の予定を考えることができた。
- 詳しく親切に教えていただけ良かったです。大学院での生活が明確に示されていた点もすごく良いと感じました。